



## 挑戦の季節

校長 薄田 秀明

校庭の木々の緑が一段と色濃くなり、吹き抜ける風に初夏の気配を感じる季節となりました。新しい学年がスタートして一ヶ月。子どもたちは新しい環境にもすっかり慣れ、教室や校庭には活気あふれる声が響いています。

さて、現在、本校の昇降口前には立派な「五月人形」が飾られています。これは先日、PTA 役員の皆様が子どもたちのためにと、時間をかけて丁寧に飾り付けをしてくださったものです。ご多用の中、子どもたちの教育環境を彩るためにご協力いただきました皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

五月人形（鎧や兜）を飾る習慣には、「わが子を災いから守り、逞しく成長してほしい」という切なる願いが込められています。かつて武士にとって鎧や兜は、身を護るための大切な装備でした。現代においては、それが「困難に立ち向かう強さ」や「自分を律する心」の象徴として受け継がれています。

並んだ人形を興味深く眺める子どもたちの姿を見ていると、私たち大人が次の世代に託したいのは、単なる力強さだけではないと感じます。それは、周囲への感謝を忘れず、自分の足でしっかりと未来へ歩み出す「しなやかな強さ」です。地域や保護者の皆様の温かい眼差しに守られながら、子どもたちが健やかに育つ幸せを改めて実感しております。

今月下旬には、いよいよ運動会が開催されます。連日、校庭や体育館からは、表現運

動（ダンス）の音楽や、応援の元気な声が聞こえてくるようになりました。

本年度の運動会において、私たちが大切にしているのは「子どもたちが主役となる場づくり」です。ただ決められた動きをなぞるのではなく、自分たちで目標を立て、教え合い、高め合うプロセスを重視しています。

特に高学年の児童にとっては、準備の段階から創意工夫を凝らし、自分たちの力で運動会を創り上げる貴重な機会です。練習の過程では、意見の対立や思うようにいかない場面もあるでしょう。しかし、その葛藤こそが「非認知能力（自制心や協調性、粘り強さ）」を育む土壌となります。壁にぶつかったときに、どう乗り越えるか。その経験こそが、五月人形に込められた「逞しさ」へと繋がっていくのだと信じています。

運動会当日、子どもたちが練習の成果を存分に発揮し、校庭に輝く笑顔があふれることを今から楽しみにしています。保護者の皆様におかれましては、ご家庭での体調管理や励ましの言葉など、多方面でのサポートをありがとうございます。

五月人形が見守る中、子どもたちが「自分らしさ」という兜を脱ぎ捨てることなく、堂々と、そして清々しく五月の大空を泳ぐ鯉のぼりのように飛躍できるよう、教職員一丸となって取り組んでまいります。

子どもたちの活躍の様子は、ホームページをご覧ください。

今月も、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。